

ここすき！特別企画 幼稚園に行ってきました！

ママの森幼稚園 訪問インタビュー

ママの森幼稚園は学園通りの東側に面しており、近隣には保育園、学校、住宅に囲まれております。

昭和30年に開園。まだ、国立市に幼稚園は2ヶ所しかなかった時代。園のまわりには住宅もなく野原のようだったそうです。

もともと教師であった園長先生は、幼児教育が教育の源と思い、ご家族や様々な人の支えにより、国立市に幼稚園を開園されました。

教育目標

「よく見て、大きく、ごしごと」を教育の3原則としています。

「よく見て」とは“集中すること”

「大きく」とは“小さなこだわりを捨て全体を大きく見ること”

「ごしごと」は“体を使って努力すること”

園長先生のご主人で陶芸家であった人間国宝・故三浦小平二氏が作品を作る上で最も大切にしていたことを教育目標に掲げています。



(2階から見た園庭)



(飼育舎の様子)

園庭に入るとすぐ両脇に動物の飼育舎が並んでいます。動物の様子を見ながら園舎に入って行けます。うさぎ、オウム、リス、フラミンゴ…どの生き物も子どもたちが観察できます。動植物に自然と触れる機会を多くするための配慮が感じられました。

動物が死んでしまったら子どもたちと一緒に別れの式をするそうです。すべての命あるものは生長した後、死を迎えます。それが自然の摂理であり、教育の根本であると話されていました。また、園長の戦争体験から避難訓練を大切にしており、どんな状況に置かれてもパニックにならず、しっかり周りを見て行動できるように工夫して実施しています。これらを通じて、子どもたちは命というかけがえのないものの尊さを体で覚えていきます。



(←「アンパンマン」の作者やなせたかし氏がママの森幼稚園のために書いてくれた絵とメッセージ)

ママの森幼稚園では「広い世界にはいろいろな人がいるのでルールを守ってみんなで楽しく暮らしていこう」ということを大切にしています。園児ひとりひとりの発達過程を大切にするため、テストによる振り分けはせず、どの子どもも受け入れているそうです。そのため、複数の職員が協同で保育に当たるチーム保育、つまり担任一人がクラスを保育するのではなく、園全体で子どもを見守り育てる保育を実施しています。そして保育時間中、本物との出会いが充実するように、その道で一流と言われている人から直接指導を受ける機会を多く設けているとのことでした。



(園長先生念願の「お砂場」が完成！冷暖房完備、雨でも遊べる専用施設です。)

ママの森幼稚園では、ドリルなどはせずに、立体的な顔の作成や自画像を描くなど造形や絵画に力を入れています。また、年長になると「お茶」の時間があり、礼儀作法を学ぶ機会を設けています。

職員にも日頃から、感性を磨いて欲しいと考えており、舞台やオーケストラ、展覧会や寄席など文化や芸術の鑑賞を促しているそうです。子どもと同様に本物を見たり、触れたりすることで、考え方の幅を広げて欲しいと語られ、そのことが、子どもの気持ちに寄り添うことにつながるといったいい循環が生まれますとお話しされていました。



(↑エプロン姿で迎えてくれた三浦園長先生と中江副園長先生)

ママの森幼稚園では保護者の任意参加でのサークル活動がいくつかあります。「子育ては孤独ではいけない」と親たちの心を少しでも軽くしてあげたいという思いから「母たちのための上等な井戸端会議」のスペースとして幼稚園の前に五浦ハウスを建てました。子どもが幸せになるためには、その親も幸せでなければならないとの思いから保護者のサークル活動の場として活用しています。

園長先生が最も尊敬する人は、愛に満ちたマザーテレサ。「どんな人でも分け隔だてなく愛し、理解してくれるのではなく理解する人になる」を心にとめ、分け隔だてなく子ども達を愛おしく思う姿が感じられました。

どの子どもにも礼節を教え、時には厳しい言葉をかけても本気で関わりとした一貫とした姿勢に感動を覚えるとともに、様々なお話をしていただき楽しい時間を過ごさせていただきました。

※幼稚園のホームページは市役所ホームページからもご覧になれます。

国立市ホームページ→子育て支援ページ→子どもを預ける→幼稚園→国立市幼稚園等一覧